

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	瀬戸町笹岡地区	令和6年1月13日	-

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	68.9ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	41.0ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	17.1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	9.7ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.0ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	0.0ha
(備考)	

- 注1: ③の「75才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
- 注2: ④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
- 注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
- 注4: プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

<p>○笹岡地区内の耕作を一手に引き受けている農業者が高齢になっており後継者もいない。また、農業機械の経年劣化が進んでいるが米価が低く農業機械が高額であることから新たな購入は困難で、機械が壊れたら耕作をやめざるをえないと考えている農業者もあり、担い手が減少する不安がある。アンケート結果から回答者の内75歳以上で後継者未定とした農業者の耕作面積9.7haに対し新たな引き受け意向のある面積は中心経営体以外の農業者を含めても0.3haであることもわかり担い手不足が懸念される。</p> <p>○耕作されていない農地の大半は山際にあり除草後の草の処分にも苦慮している。耕作放棄地対策に取り組むには処分方法の検討が必要である。</p> <p>○補助金制度等はあるが、将来の農業継続に繋がるような長期的な制度を希望する。</p>
--

注:「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地区内のまとまった面積の農地が近隣施設用地に転用されることになっているが、該当地で耕作している農業者の中にも農業継続希望者がいる。希望者が耕作されていない農地で農業継続できるよう、地区内で調整する。
農業者の移住等地区外からの担い手受け入れや、隣接地区内の大学生に農作業アルバイト依頼など、担い手不足を補う体制を整える。
以前地区内の耕作を担う農業者の団体があった。同様の組織を作れば地区内で農業を継続できる可能性もあるので、検討する。
地区内の農業についての話し合いには若い世代が必要であるため、参加を呼びかける。

- 注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
- 注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。